

『とうかい環境フェスタ2018 with キャンドルナイト』 キャンドルアート作品募集!!

東海村の夏の風物詩である「とうかい環境フェスタ2018 with キャンドルナイト」。今年もキャンドルナイトを彩る「キャンドルアート」を募集します。個人はもちろん、学校やサークル、身近な仲間同士で思い思いのキャンドルアートを作って、とうかいキャンドルナイトと一緒に盛り上げてみませんか。当日は作品展示のほか、コンテストを開催します。

【日時】7月21日(土) 午後6時30分～8時30分
(小雨決行) ※展示準備が午後2時～6時、後片付けが午後8時30分～9時となります。

【場所】東海村役場(中庭) ※展示場所等は6月に開催予定の事前説明会でご連絡します。

【内容】縦横3メートル以内、高さ2メートル以内

【参加費】無料

【その他】参加者全員に、記念品を贈呈します。

【申し込み・問い合わせ】

とうかい環境村民会議事務局(役場行政棟4

階 環境政策課内 内線1454 FAX287-0479 E:kankyouto@vill.tokai.ibaraki.jp) から募集要領と申込書を入手の上、6月15日(金)までに申し込みください。



ふるさと歴訪

自然を探して

ミミガタテンナンショウ

雄株から雌株へ

東海村自然調査会調査員

安嶋 隆

「耳型天南星」は、4月から5月にかけて、葉が展開する前に開花するので、開花時には比較的簡単に見付けることができます。筒状の花びらのように見えるものは仏炎苞といい、芽やつぼみを包む葉が変化したものです。仏炎苞が耳たぶのように張り出しており、中国では「天南星」と呼ぶことから、このような名前が付けられました。

「マムシグサ」とも呼ばれ、赤い実は有毒、花はマムシの鎌首に似ていることなどから、野外では敬遠されています。この仲間にはサトイモ科のマムシグサ属に分類され、全国的には30種以上もあります。変異が多く中間的な形態のものも多数あるため、区別困難なグループの一つです。

県内各地に見られますが、東海村のような平地では珍しいことです。村内のスギ林に

ミミガタテンナンショウの雄花(左)と雌花(右)



雌株(左側)と雄株(右側)の地下茎



ミミガタテンナンショウ

生育地がありますが、林内の環境が変化して、減少傾向にあります。今年3月に発行された『東海村の自然誌Ⅱ』(東海村教育委員会)では、準絶滅危惧種(東海村レッドリスト)に指定されています。

仏炎苞の中には付属体と呼ばれる長い棒状のものがあります。花は付属体の基部にあり、外側からは見えません。内部を観察してみると長い花序があり、雄しべ(雄株)あるいは雌しべ(雌株)が多数集まっています。同じ株でイモ状の地下茎が小さい時には雄株、大きくなると雌株に変化するという特異的な性質をもっています。

村内では、サトイモ科の種類は、ウラシマソウ、ムサシアブミ、ザゼンソウ、ヒメザゼンソウなども確認されており、東海村の生物多様性が高いことを示しています。